

公開保育を活用した幼児教育の質向上システム
ECEQ コーディネーター報告書

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	学校法人東光寺学園
理事長名	理事長 大塚 真司
園名	認定こども園東光寺幼稚園
園長名	園長 大塚 久子
担当者名	役職名 園長 氏名 大塚 久子
住所	〒326-0143 栃木県足利市葉鹿町224
電話番号	0284-65-4045
FAX 番号	0284-62-4556
メールアドレス	kids@tokoji.jp
園児数	135 人
学級数と人数	年長組 2 学級 42 名 / 年中組 2 学級 42 名 / 年少組 2 学級 41 名 満3歳組 1 学級 10 名 / 2歳児 15 名 / 1歳児 13 名 / 0歳児 0 名
保育者数	31 人
職員数	10 人

ECEQ メイン コーディネーター 一名	小倉 庸寛 ・ 田淵 光与	
ECEQ サブ コーディネーター 一名	山崎 英明	大嶋 裕
	栗田 英子	岡本 純世
研修履歴	STEP1 令和3年 8月 4日(水)	小倉庸寛
	STEP2 令和3年10月19日(火)	小倉庸寛
	STEP3 令和3年11月 8日(月)	小倉庸寛
	STEP4 令和3年11月16日(火)	小倉・田淵・山崎・大嶋・栗田・岡本
	STEP5 令和3年12月 2日(木)	小倉庸寛

STEP を通して

1. STEP 1 や STEP 2 で抽出された自覚的な良さや課題

STEP 1

・「すべては子ども達の笑顔のために」を教育理念に掲げ、安心して安全な心安らぐ教育と保育環境を提供することを目指している。子どもの生きる力を育む教育・保育を心がけ、地域の子育て拠点になることを目指して、乳児から学童まで幅広く保護者のニーズに合わせて運営している。仏教教育を掲げているが、それにこだわりすぎるわけでもなく、自然とお釈迦様を敬う気持ちとその教えを身に付けられるようにしている。園長先生をはじめ、主任の先生方のお話を聞かせて頂き、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基本とし幼児教育に真摯に向き合う姿に感銘を受ける。計画、その他書類もしっかりと揃い、文書のデジタル化も進んでいる。この公開保育を機会に、さらに質を高めようと考えている。

STEP 2

先駆的にポートフォリオに取り組み、1人1人の良さを可視化することに力を入れている。子どもの気づきや発見などの素敵なシーンを「トキメキ・ヒラメキ」の視点にて付箋に書いて、各クラスにある模造紙に貼り付けて全スタッフで取り組んでいる。子どもを気にかけて、共通理解をしようとする取り組みに感心する。学期ごとに自己評価を行い、振り返りから次につなげられるよう、職員会議等での話し合いもこまめに行っているようである。今後の課題としては、教員の入替がある際の情報の共有と年齢と経験に差があり、コミュニケーション、伝えることの難しさを感じていた。また、小学校との連携を重要課題に掲げており「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、ことばの力、情報を活用する力、探求心を身に付けられるように実践していきたいとのことだった。また、コロナ禍にあり、子どもの育ちをどのように保護者に伝えたらいいかも課題としていた。

2. STEP 4

Step3 の後、自園でしっかりと公開保育でのテーマの設定に取り組んでいた。一斉保育…朝と帰りの時間と外部講師の活動のみ。コーナー保育…子どもがやりたい遊びに自由に取り組む。小グループをつくったり、個人でじっくり遊んだりする遊び。それぞれで楽しんでいる様子を見てもらうためにはどうすればいいか、コーナー保育の良さを見てもらうために、自身もその良さを理解しなければならないことに気づき、担当保育者ごとに話し合いをもって考えをまとめていた様子であった。各コーナーで保育者が子どもの興味に合わせて環境を準備し展開できるように、取り組んでいる様子であった。

問い立てには少しだけ苦慮したようであったが、公開日までの活動を振り返り、園長先生の助言とコーディネーターの少しの意見を取り入れて設定することができていた。「環境設定」がテーマになっており、それに関わる子どもの姿を参加者の視点で捉えてもらい、たくさんの意見を頂きたいという願いを込めた「問い」となった。

A. アートコーナー…子どもは自分のやりたいこと（つくりたいこと）に満足いく遊びとなっていましたか。教材（廃材・素材）の配置、子どもの動線など、使いやすい環境になっていましたか。

B. ままごとコーナー…自ら考えたり、友だちとイメージを共有したりする姿は見られましたか。

子どもの遊びやすい環境になっていましたか。道具、動線、空間、素材の準備などアドバイスをお願いします。

子どものやりとり、会話の中から印象的なことがあったら教えてください。

C. 園庭コーナー…子どもが意見を出し合いながら思いをもって遊べていましたか。

砂場の環境について子どもたちが遊びを広げるためのアドバイスがあったら教えてください。

(具体的な遊びの場面、言葉のやり取りなどがありましたら教えてください)

D. ブロック&テーブルゲームコーナー

子どもが工夫したり、試行錯誤したりする姿はみられましたか。

子どもがイメージを形にできるように環境を考えましたが、遊びをより広げるためにどのような教材や環境があればよいと思いますか。

E. 絵本コーナー

絵本コーナーの環境づくりの工夫がありましたら教えてください。

子どもが絵本をきっかけにして遊びへ繋げていく姿は見られましたか。

3. STEP 4 の分科会における外部から見た良さや課題

A. アートコーナー（岡本）

- ・異年齢でのねらいの立て方は難しいが、保育者間でのこまめな情報共有や話し合い等で子どもの興味関心がどこにあるのかを考え、環境設定を工夫していくことが大切。
- ・その場にはいない子が何をしていたかを把握できるように、ポートフォリオやノート、パソコン等を活用し、職員間の情報共有を丁寧に行っていくことが必要である。
- ・異年齢ならでは子ども同士のやりとりから気づけるような工夫も考えられたらよい。
- ・なかなか興味を持たない子へのかかわりをどのようにするかも考えていくと良いのでは。

B. ままごとコーナー（栗田）

- ・先生がしかけすぎているのかな？子ども達が主導で進んでいるのかが先生の悩みでもある。
- ・準備の段階から子ども達と一緒にできたらいい ・異年齢の交流も少しだけ見えた
- ・見学者が多かったので…コーナーに留まらなかった？
- ・子ども達の世界観を大切にしたい。・使いやすい様に準備してあり、片付けもできていた
- ・安全面の配慮が気になった ・子ども達と一緒にすることで愛着も沸くし、広がるかもしれない

C. 園庭コーナー（田淵）

- ・2週間続いているドライブスルー、明日へのプランに繋がっていた
- ・砂場、5歳テーマをもって深く掘っていた、役割分担もあった。4歳、みんな一緒に遊んでいる、いざこざもあるけれど、先生がすぐに仲介に入らずに見守る、葛藤を経験させていた。3歳、5、4歳の真似をしながら、将来の自分を重ねているのかな、でも活動への意欲も感じられた。

D. ブロック&テーブルゲームコーナー（大嶋）

- ・先生達がゆったりと過ごしている。言葉かけをし過ぎていたかもしれない。
- ・試行錯誤に繋がっている ・教材はその他にもいろいろありましたか？
- ・保育の形態のメリット、デメリットを話し合いました。・まだ工夫の余地はあると感じた。

E. 絵本コーナー（小倉）

- ・絵本を見るだけでなく、安心できる空間、ゆったりと過ごせる環境としていた。
- ・絵本の設置、見せ方、紹介の仕方など先生の工夫がたくさん見てとれた
- ・先生が子ども達の反応に手ごたえを感じていたことは素晴らしい、子どもたちも楽しい環境なのだと思う

総評まとめ（田淵）

・この幼稚園が幼稚園の基本、環境を通して行う保育を如実に実現されていることが見て取れました。先生が環境を意図的に構成することができていましたし、ゆったりとした時間がながれ、子どもが考えて自分たちで遊びをすすめている様子でした。午前中4時間（教育時間）がワンパックになって活動が進められていることも幼児教育としての基本が生かされていました。その日だけの活動ではない2週間続くこともあるとのこと、子どもたちの発案で続いていること。子ども主体を体現されている。毎日の子どもの記録（何をしていた、何を面白がっていた、何を発見して、どんな力が育っているのか）、付箋で貼って共有している。これがドキュ

メンテーション。今日の活動が明日のプランに繋がっている。PDCA サイクルが回っている。見習うべき計画の仕方だと思う。コーナーにて異年齢の関わりの姿は見られなかったけれど、自分から活動ができていて、やりたいことをやれている、楽しいことをしているので、今日は見られなかったけれど、いつもは見られるだろう。課題として同じ学年で育てたいスキルチェックが難しい。個々だけになってしまうと年長児の卒園までに協同性のような集団で学ぶ力の育成が見えにくいこともあるので、3学期の過ごししかた、どのようにその育ちを見取るかが課題。かたづけの指導、大型つみきの収納、どろかけごっこの後始末、ガーデン広場の活用など、その場その場で先生たちから頂いたアイデアを有効に利用して、工夫すれば改善できそうなので、よりよい環境、保育を目指して頂きたい。

4. STEP5において整理された良さや課題並びに課題解決の方策

- ・公開保育の際にたくさんのご意見を頂き、アドバイスを頂いたことは大変励みになった。また、保育のねらいと公開保育の際の「問い」はつながっていて、問いに対して頂いた意見（付箋）が今までの課題へのアドバイスとして受け取れ、保育を改善できるきっかけになったと感じる。
- ・頂いたアドバイスをもとに環境を展開し、活動を広げてみると新たな発見につながっている。
- ・自園の良さと自分の保育の良いところを知ることで、自信につながり、やる気につながっている。
- ・保育者同士の連携は、言葉だけではなく行動でも行うことがよいことに気づいた。

5. まとめ

公開園、東光寺幼稚園の理事長先生、園長先生の人柄と質の向上への意欲が今回の公開保育の成功につながっていると感じた。今、求められているカリキュラムマネジメントを実践され、教員の質向上は良質な保育となることを理解し、園内研修や自己評価での振り返りなどを継続していることは、そもそも課題解決意識が高いのだろう。それが子どもの最適な環境につながることを実践にて示してもらえたと思う。

公開保育日は、保育者の不安や緊張はあったものの、ねらいと問いに対して真摯に向き合えていたからこそ、いい付箋へのコメントがもらえていたのだと思う。子どもたちが生き生きと育っている様子や意欲的に環境に関わる様子は子どもの本来の姿であることを再確認できた。参加者もこれが幼児期の教育の根底であることに気づいたことだろう。子どもの思いを尊重した保育、支援が必要な子どもへの配慮、園全体で対応を考えていることなど、園の良さを存分に示せていた。

唯一懸念することが有るとすれば、高みを求めるあまり個々への過度な負担にならないかが心配である。個々の力の差が表れていることは課題にも挙げられていたことから、ワークシェアとメンターによるサポートが行き届くように、組織全体で解決できることを望む。

最後に、公開保育後の課題解決への園内研修や打合せは、これまでに増して同僚と学びあう組織となっていることを実感できるだろう。公開保育が強固な組織づくりの一助となり、更なる向上につながっているものと考えられる。今後も栃木県の幼児教育者の見本となり、牽引車として走り続けてもらえることを期待して報告とする。

令和3年12月28日

ECEQ メインコーディネーター

栃木県幼稚園連合会教育研究委員長

認定こども園愛泉幼稚園 小倉庸寛

ECEQ 実施園

学校法人東光寺学園

認定こども園東光寺幼稚園

園長大塚 久子 印

